

宮 崎 県 感 染 症 週 報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和8年第33週 (ARIのみ第32週) の発生動向

□ 全数報告の感染症 (33 週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。
- 2 類感染症：結核 1 例。
- 3 類感染症：報告なし。
- 4 類感染症：レジオネラ症 1 例。
- 5 類感染症：侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 例、百日咳 2 例。

	疾患名	報告 保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	60歳代	女	肺結核	なし
4類	レジオネラ症	小林	80歳代	女	ポンティアック熱型	発熱、その他
5類	侵襲性インフルエンザ菌 感染症	宮崎市	0～4歳	男	—	その他
	百日咳	都城	0～4歳	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み、嘔吐
	百日咳	高鍋	5～9歳	男	—	持続する咳

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 201 人(定点当たり 13.0)で、前週比 88%と減少した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はインフルエンザ、流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎であった。

また、第 32 週の急性呼吸器感染症の報告総数は 944 人(定点当たり 33.7)で、前週比 93%と減少した。

【新型コロナウイルス感染症】

報告数は 41 人(1.5)で、前週比 59%と減少した。年齢群別は 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

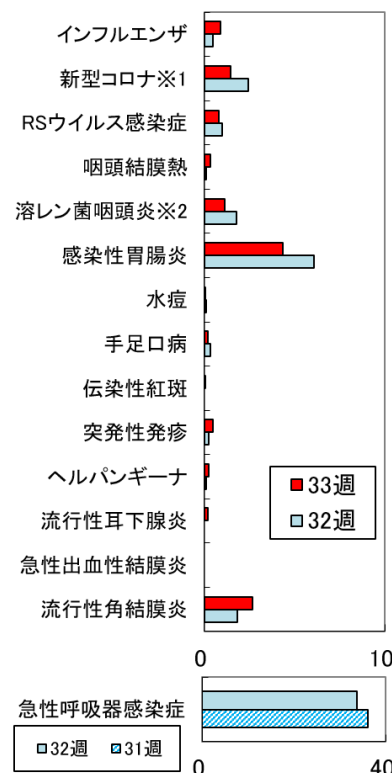
報告数は 17 人(1.1)で、前週比 63%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.3)の約 0.9 倍であった。年齢群別は 5 歳から 7 歳が全体の約 7 割を占めた。

【流行性角結膜炎】

報告数は 16 人(2.7)で、前週比 145%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(2.7)の約 1.0 倍であった。年齢群別は 40 歳代から 50 歳代が全体の半数を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015—2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

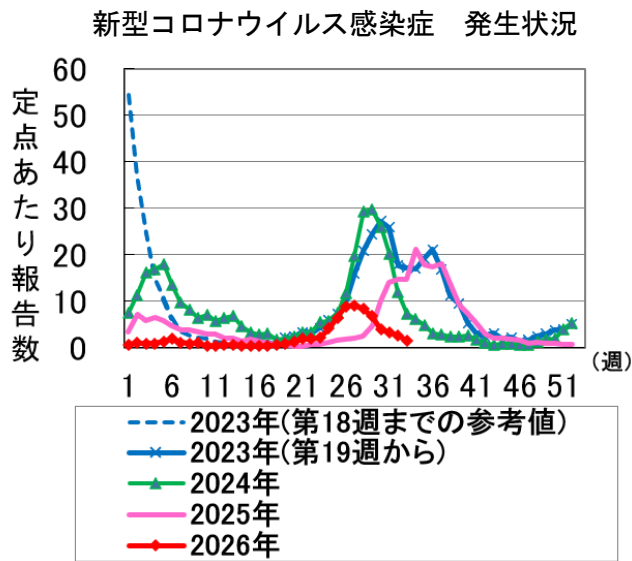
《前週との比較》



定点あたり報告数

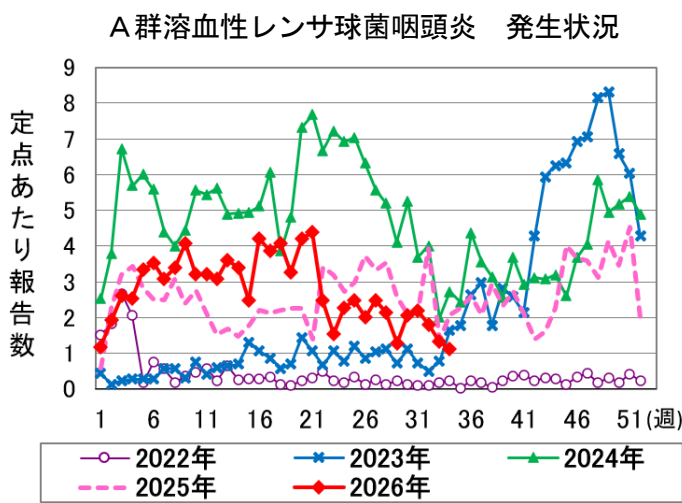
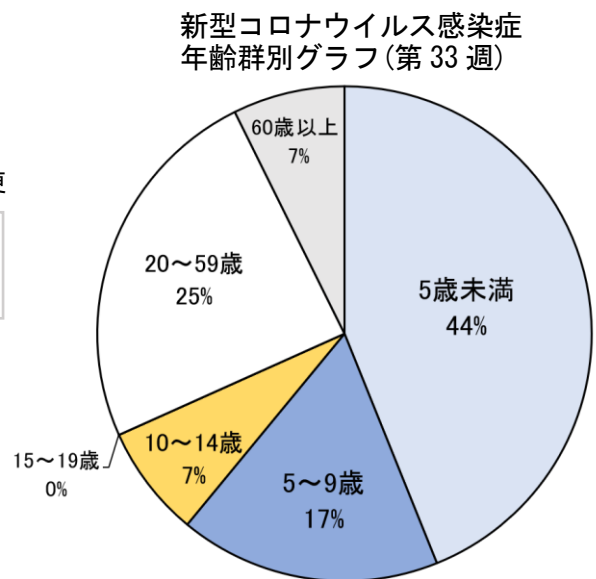
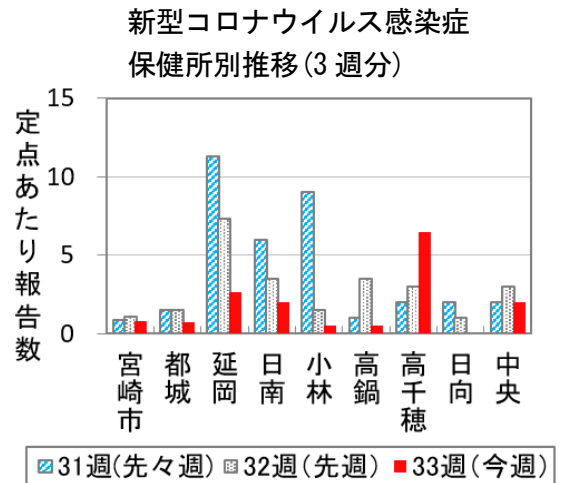
※1 新型コロナウイルス感染症

※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

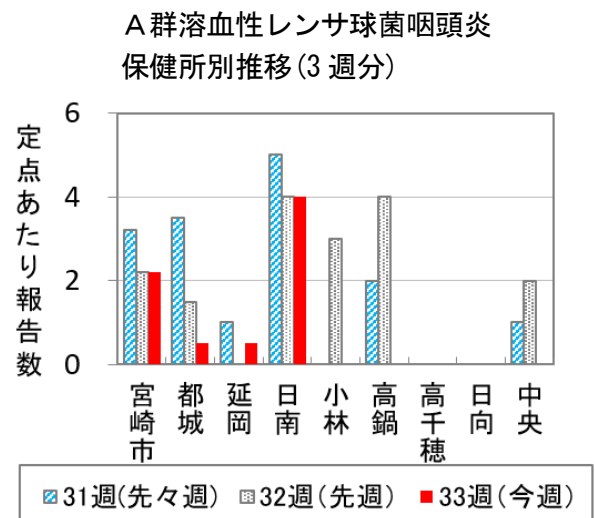


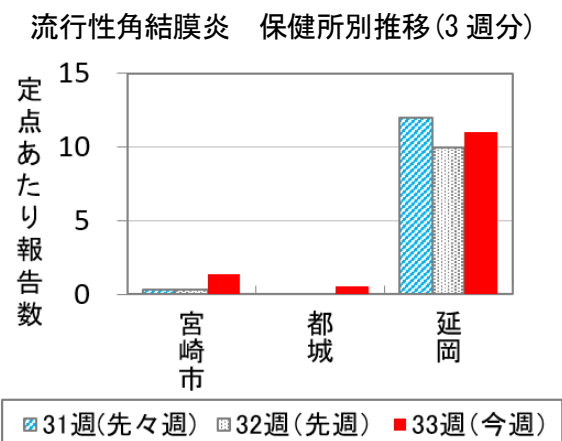
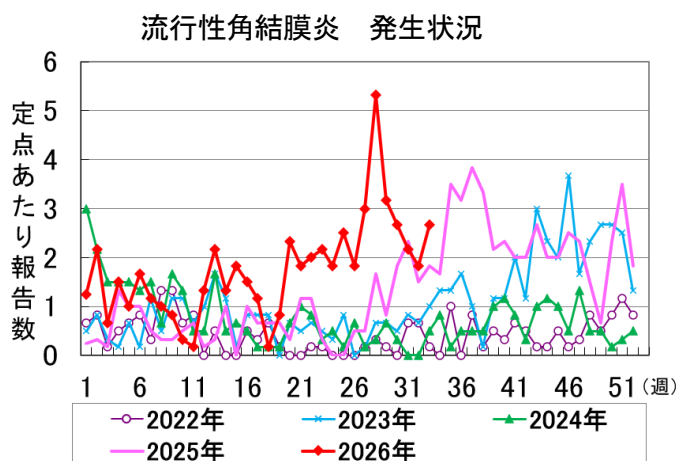
※2025 年第 15 週からは定点医療機関数が 58 から 28 に変更

※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週～第 18 週分のデータは、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値



※2025 年第 15 週からは定点医療機関数が 36 から 15 に変更





※眼科定点医療機関は宮崎市、都城、延岡保健所管内のみです

★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：報告数は1例(定点当たり0.14)で、宮崎市保健所から報告があった。年齢は10～14歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	なし
都城	なし
延岡	流行性角結膜炎(11.0)
日南	なし
小林	なし
高鍋	水痘(1.0)
高千穂	なし
日向	なし
中央	なし

※流行警報レベル開始基準値※

・流行性角結膜炎(8)

※流行注意報レベル基準値※

・水痘(1)

※流行警報レベル開始基準値、流行注意報レベル基準値は令和6年度まで運用した参考値です。

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部)

★急性呼吸器感染症 (Acute Respiratory Infection : ARI)

(第32週:8月3日～8月9日搬入分)

検出病原体			検出数
インフルエンザウイルス	A型	AH1pdm09	0
		AH3	0
	B型	ビクトリア系統	0
		山形系統	0
新型コロナウイルス			1
RSウイルス	A型		0
	B型		1
パラインフルエンザウイルス	1型		1
	2型		0
	3型		1
	4型		0
ヒトメタニューモウイルス			1
ライノウイルス			3
エンテロウイルス			0
アデノウイルス			0
検出せず※2			4
受付検体数			12

○ 急性呼吸器感染症 (ARI) ※¹サーベイランス検体について、急性呼吸器感染症サーベイランス遺伝子検査マニュアルに従い、検査を実施した。

※1 急性呼吸器感染症 (ARI)：咳嗽、咽頭痛、呼吸困難、鼻汁、鼻閉のいずれか1つ以上の症状を呈し、発症から10日以内の急性的な症状であり、かつ医師が感染症を疑う外来症例

※2 左記のいずれのウイルスも検出されなかった検体数を計上

(細菌・ウイルスについては 2026 年 8 月 17 日までに検出分)

★細菌

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EHEC (O157:HUT)	30歳代	男	2026.07.03	発熱、腹痛、下痢、血便	便	2026.07.22
EPEC (O26:HNM)	5～9歳	女	2026.07.08	発熱、頭痛、下痢	便	2026.07.15
EPEC (O103:HUT)	5～9歳	男	2026.07.09	発熱、下痢、血便	便	2026.07.22
EHEC (OgGp3:H16)	5～9歳	男	2026.07.23	症状なし	便	2026.08.04
EHEC (OgGp3:H16)	0～4歳	女	2026.07.23	水様性下痢、痰がらみの咳、鼻水	便	2026.08.04
EHEC (OgGp3:H16)	10歳代	女	2026.07.23	症状なし	便	2026.08.04
EHEC (O26:H21)	5～9歳	男	2026.07.26	症状なし	便	2026.08.03

○成人、乳幼児及び児童から腸管出血性大腸菌が検出された。腸管出血性大腸菌感染症は経口感染し、少ない菌量でも家族や保育園等の集団で感染が広がることがあるため、食材の加熱や洗浄、調理器具の消毒、手洗い等を徹底する必要がある。腸管出血性大腸菌感染症は初夏から初秋にかけて多発するため注意が必要である。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
Coxsackie virus A6	0～4歳	女	2026.06.25	手足口病もしくはヘルペス、水疱、発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2026.08.17
Rhino virus C	0～4歳	女	2026.06.30	アデノウイルス感染症、39.4℃、上気道炎、下気道炎(肺炎)、結膜炎	鼻腔ぬぐい液	2026.08.04
Rhino virus A	5～9歳	男	2026.07.09	伝染性紅斑、発疹(紅斑)	咽頭ぬぐい液	2026.08.17
Coxsackie virus A6	0～4歳	女	2026.06.15	咽頭炎、40.0℃	鼻汁	2026.08.14

🇯🇵 全国 2026 年第 32 週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	249 例				
3類感染症	細菌性赤痢	1 例	腸管出血性大腸菌感染症	143 例	腸チフス	2 例
4類感染症	E型肝炎	9 例	A型肝炎	11 例	エムボックス	6 例
	重症熱性血小板減少症候群	5 例	デング熱	8 例	日本紅斑熱	18 例
	ライム病	1 例	レジオネラ症	60 例	レプトスピラ症	1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	8 例	ウイルス性肝炎	2 例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	14 例
	急性脳炎	5 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	1 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	19 例
	後天性免疫不全症候群	9 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	18 例	水痘(入院例)	11 例
	多剤耐性緑膿菌感染症	7 例	梅毒	152 例	播種性クリプトコックス症	3 例
	破傷風	1 例	百日咳	76 例	麻しん	2 例

□ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 92%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はインフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症で、減少した主な疾患は手足口病、ヘルパンギーナであった。また、急性呼吸器感染症の報告数は前週比 98%とほぼ横ばいであった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は 6,578 人(1.8)で前週比 105%と増加した。島根県(7.1)、山口県(6.2)、愛媛県(5.2)からの報告が多く、年齢群別では 15 歳未満が全体の約 7 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 7,674 人(3.5)で前週比 101%とほぼ横ばいであった。例年同時期の定点当たり平均値*(3.1)の約 1.1 倍であった。石川県(7.0)、福井県(6.7)、大分県(6.1)、宮崎県(6.1)からの報告が多く、年齢群別では 1 歳から 2 歳が全体の約 3 割を占めた。

手足口病の報告数は 10,403 人(4.7)で前週比 78%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(4.9)の約 1.0 倍であった。岩手県(15.4)、山形県(12.1)、宮城県(10.5)からの報告が多く、年齢群別では 6 ヶ月から 2 歳が全体の約 8 割を占めた。

* 新型コロナウイルス感染症流行前 5 年間(2015-2019)の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均値

月報告対象疾患の発生動向 <2026年7月>

□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は32人(2.5)で、前月比89%と減少した。また、昨年7月(2.6)の約0.9倍であった。

《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数18人(1.4)で、前月の約1.1倍、昨年7月の約0.8倍であった。

20歳代が全体の半数を占めた。(男性5人・女性13人)

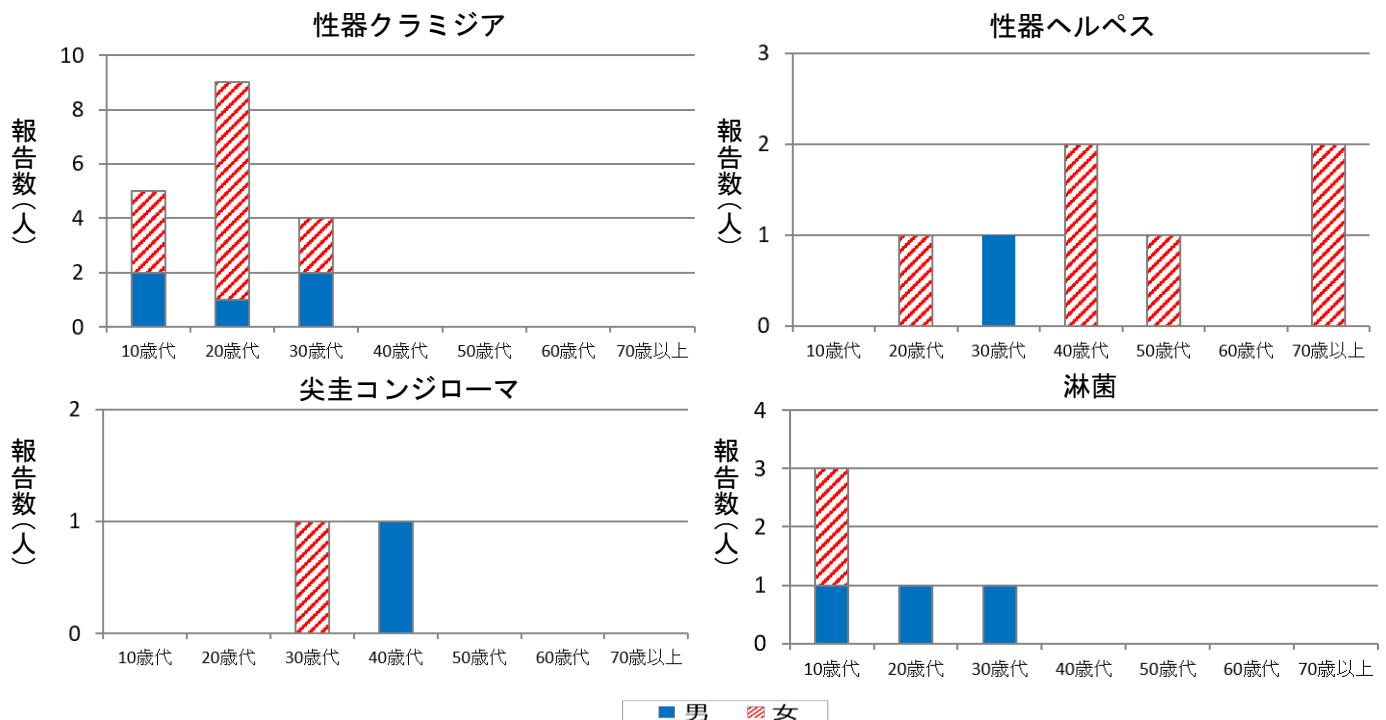
○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数7人(0.54)で、前月の約0.5倍、昨年7月の約0.8倍であった。(男性1人・女性6人)

○尖圭コンジローマ：報告数2人(0.15)で、前月と同率であった。

(男性1人・女性1人、昨年報告なし)

○淋菌感染症：報告数5人(0.38)で、前月の約1.3倍、昨年7月の約1.7倍であった。

(男性3人・女性2人)



【全国】

定点医療機関からの報告総数は4,574人(4.7)で、前月比101%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,358人(2.4)で前月比100%、性器ヘルペスウイルス感染症1,024人(1.1)で前月比100%、尖圭コンジローマ537人(0.55)で前月比98%、淋菌感染症655人(0.67)で前月比106%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は20人(2.9)で、前月比125%と増加した。また、昨年7月(2.0)の約1.4倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月の約1.3倍、昨年7月の約1.4倍であった。70歳以上が全体の7割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

【全国】

定点医療機関からの報告総数は1,310人(2.7)で、前月比101%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,271人(2.7)で前月比101%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症39人(0.08)で前月比114%であった。

疾病名		第32週	第33週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	14	25	13	2	2			1	6	1	
	定点当り	0.50	0.89	1.44	0.50	0.67	0.00	0.00	0.50	3.00	0.50	0.00
新型コロナウイルス感染症	報告数	69	41	7	3	8	4	1	1	13		4
	定点当り	2.46	1.46	0.78	0.75	2.67	2.00	0.50	0.50	6.50	0.00	2.00
RSウイルス感染症	報告数	15	12	4	2	5	1					
	定点当り	1.00	0.80	0.80	1.00	2.50	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	2	5	3			1		1			
	定点当り	0.13	0.33	0.60	0.00	0.00	1.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	27	17	11	1	1	4					
	定点当り	1.80	1.13	2.20	0.50	0.50	4.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎	報告数	91	65	17	13	3	10	4	1		13	4
	定点当り	6.07	4.33	3.40	6.50	1.50	10.00	4.00	1.00	0.00	13.00	4.00
水 痘	報告数	2	1						1			
	定点当り	0.13	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	5	3	1		1						1
	定点当り	0.33	0.20	0.20	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数		1				1					
	定点当り	0.00	0.07	0.00	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	4	7	5			1	1				
	定点当り	0.27	0.47	1.00	0.00	0.00	1.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	2	4	1						3		
	定点当り	0.13	0.27	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	3.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数		3		2							1
	定点当り	0.00	0.20	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	11	16	4	1	11						
	定点当り	1.83	2.67	1.33	0.50	11.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数	1	1	1								
	定点当り	0.14	0.14	1.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数											
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

2026年 第32週(08月03日～08月09日)

		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
急性呼吸器感染症	報告数	1012	944	246	121	133	64	80	96	69	100	35
	定点当り	36.14	33.71	27.33	30.25	44.33	32.00	40.00	48.00	34.50	50.00	17.50

ARI定点:28、小児科定点:15(ARI定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2026年 第01週～33週 保健所受理分)

2類感染症	結 核	88例(1)				
	腸管出血性大腸菌感染症	43例				
4類感染症	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群	3例	つつが虫病	4例
	日本紅斑熱	9例	レジオネラ症	11例(1)		
5類感染症	アメーバ赤痢	2例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1例
	急性脳炎	1例	クリプトスポリジウム症	1例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7例
	後天性免疫不全症候群	4例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例(1)	侵襲性肺炎球菌感染症	9例
	水痘(入院例)	6例	多剤耐性緑膿菌感染症	2例	梅 毒	42例
	播種性クリプトコックス症	4例	破傷風	1例	百日咳	49例(2)
	麻しん	1例				

()内は今週届出分、再掲